# いわて復興だより

がんばろう!岩手 つながろう!岩手
第186号
令和4年度第3号

## 三陸復興

平成23年3月11日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にし、復興のステージを更に前に進めていく岩手県の今を紹介します。

陸前高田市
RIKUZENTAKATA

## 開催 令和４年度第２回いわて復興未来塾開催

令和４年９月25日（日）、「未来につなぐ 震災伝承」をテーマに、令和４年度「第２回いわて復興未来塾」が陸前高田市で開催されました。

午前の震災遺構見学等エクスカーションでは、高田松原津波復興祈念公園と東日本大震災津波伝承館の視察が行われ、50名が参加しました。参加者は、高田松原津波復興祈念公園パークガイドの案内により旧道の駅タピック45の内部を見学し、津波の直撃を受け激しく破壊された状況を目の当たりにして津波の威力を学びました。また、令和元年９月の開館から３周年を迎えた東日本大震災津波伝承館を視察し、解説員の説明を聞きながら東日本大震災津波の事実と教訓を学びました。

震災遺構を見学する参加者

午後の「東日本大震災津波伝承館開館３周年・震災語り部等ガイドサミット」では、陸前高田市コミュニティホール・シンガポールホールを会場に、基調講演及びパネルディスカッションが行われ、約60名が参加しました。

基調講演では、北淡震災記念公園（兵庫県）の総支配人・米山正幸さんが、平成７年に発生した阪神・淡路大震災の語り部活動を紹介しながら、防災の基本である自分の命は自分で守ることの大切さや、聞き手のニーズの変化に対応した多様な語り部活動の必要性について述べました。

米山さんの基調講演の様子

その後、一般社団法人おらが大槌夢広場（大槌町）の代表理事・神谷未生さんを聞き手として、認定特定非営利活動法人桜ライン311（陸前高田市）の代表理事・岡本翔馬さん、東日本大震災津波伝承館（陸前高田市）の解説員・吉田彰さん、公益社団法人3.11みらいサポート（宮城県）の理事・藤間千尋さん、東日本大震災・原子力災害伝承館（福島県）の職員・渡邉舞乃さんによるパネルディスカッション「いのちを守り、海と大地と共に生きる～二度と東日本大震災津波の悲しみを繰り返さないために～」を行いました。コメンテーターとして、基調講演に引き続き、米山正幸さんにも参加していただきました。登壇者の皆さんは、東日本大震災津波の伝承活動に携わるきっかけや日頃の活動を通して感じている課題などについて意見交換を行い、震災の経験者だけでなく若い世代など多くの方々が自分のできる方法で伝承に取り組むことの重要性や、今後の活動に向けた決意を語りました。

パネルディスカッションの様子

知事からは、「災害の体験・経験は非常に個人的なものであり、それとどう向き合うのかもそれぞれ人によって違うが、それでも一人一人違うことで個人の尊厳があり、人から人へ伝えていくことの掛け替えのなさも生まれてくるのではないか」とコメントがありました。

総括コメントを述べる達増知事

ガイドサミットの様子は、10月中旬に県公式動画サイトで配信予定ですので、ぜひご覧ください。

■問い合わせ　岩手県復興防災部復興推進課
☎019-629-6945

## 取組 釜石の復興の経験を世界と共有

釜石市 KAMAISHI

令和４年８月18日（木）、東日本大震災津波からの復興に取り組んできた釜石市の経験を世界と共有するため、国際協力機構（JICA）が作成した動画教材「インドネシア国中部スラウェシ地震復興支援：コミュニティ再生・生業（なりわい）回復の取り組み－日本の復興経験の現地適用化－」が釜石市役所でお披露目されました。

平成30年９月にインドネシア・スラウェシ島で発生した大地震の復興支援では、釜石市から、東日本大震災津波からの復興の過程で市が住民と対話を重ね丁寧に合意形成しながら取り組んだ、まちづくりや生活再建の経験が現地へ伝えられました。

動画教材は、東日本大震災津波からの復興の経験に基づき、復興の段階から災害に強いコミュニティづくりや被災者に寄り添った支援の重要性を次世代へ伝承するため、コミュニティ再生や生業（なりわい）回復支援に向けた歩みを約40分の映像にまとめたものです。日本語のほか英語やスペイン語でも作成され、今後、世界各国の行政官に対する研修のほか、日本や海外の学生に対する講義等で活用される予定です。

動画教材の贈呈の様子（写真提供：釜石市）

■問い合わせ
釜石市総務企画部総合政策課
オープンシティ推進室
☎0193-27-8413　　動画教材はこちら➡

## 取組 陸前高田市と名古屋市の中学生　交流10年

陸前高田市 RIKUZENTAKATA

陸前高田市と名古屋市の中学生、ＯＢ・ＯＧが参加した交流行事の様子（写真提供：陸前高田市）

陸前高田市と愛知県名古屋市は、東日本大震災津波の震災復興支援の縁からつながりを強め、平成24年度から両市の中学生による相互訪問事業に取り組んでいます。

令和４年８月20日（土）、相互訪問事業の10周年を記念する交流行事が陸前高田市民文化会館で開催され、両市の中学２年生57名とＯＢ・ＯＧ93名の計150名が参加しました。

中学生の参加者は、防災・減災をテーマにグループワークを行い、災害への備えや災害発生時の避難行動のあり方などについて意見を交わしました。また、ＯＢ・ＯＧの参加者は、中学生と共に防災ゲームを体験したほか、バスで市内を巡り、津波到達点に桜を植える団体の活動などを学びました。

両市では、10年間で延べ約500名が相互訪問し、交流事業や震災学習、職場体験などを行っており、来年１月には陸前高田市の中学生が名古屋市を訪問することとしています。

■問い合わせ　陸前高田市教育委員会学校教育課
☎0192-54-2111（代表）

## 世界へ、未来へ　いわてTSUNAMI（つなみ）メモリアル

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」（いわて TSUNAMI（つなみ）メモリアル）を紹介します。

東日本大震災津波伝承館では、令和４年９月17日（土）から10月16日（日）まで、令和４年度第２回企画展示「事実と教訓を未来につなぐ」～三陸各地における持続可能な震災伝承のかたち～を開催しています。

三陸各地には、東日本大震災津波の事実と教訓を発信し、防災文化の醸成につなげようと取り組んでいる団体が数多くあります。今回の企画展示では、「風化させない伝承」と「未来に向けた伝承の担い手育成」の二つの視点から、震災遺構を生かした伝承や災害を自分事とする防災教育、高田松原津波復興祈念公園パークガイドの養成を始めとする伝承の担い手となる人材育成等、未来に向けて持続可能な震災伝承のかたちを紹介しています。

ご覧になった方からは、「三陸各地を訪れて、震災後のまちづくりや復興の状況を実際に見てみたい」との感想が聞かれました。

東日本大震災津波伝承館では、今後も、常設展示を通じて東日本大震災津波に関する効果的な学びの場を提供するとともに、来館された方々が三陸地域の様々な魅力に関心を持ち、各地を訪問していただけるよう、企画展示を開催していきます。

■問い合わせ　東日本大震災津波伝承館　☎0192-47-4455

### 企画展示

**「事実と教訓を未来につなぐ」**
**～三陸各地における持続可能な震災伝承のかたち～**

開催日時
9/17（土）～10/16（日）9:00～17:00

開催場所
東日本大震災津波伝承館ゾーン４
（道の駅側・地域情報スペース）

企画展示の様子

## 話題 大船渡市魚市場で待望のサンマ初水揚げ

大船渡市 OFUNATO

令和４年８月27日（土）、秋の味覚・サンマが、本州のトップを切って大船渡市魚市場に初水揚げされました。

初水揚げの量は3.2トンで、一昨年の４トンを下回り、初水揚げとしては記録が残る平成13年以降過去最少となりました。サンマは100グラム以下の小ぶりなものが目立ったものの、価格は昨年の３倍以上の高値で取引され、魚市場は初水揚げの活気にあふれました。

市内の産直施設などでは、早速、大船渡産の生サンマがお目見えし、初物のおいしさを堪能しようと、買い求める多くの市民らでにぎわいました。

近年、サンマの不漁が続き、更に今年は公海での操業に当たり、ロシアが主張する排他的経済水域（EEZ）を迂回するなどロシアによるウクライナ侵攻の影響も受けている中、関係者は、大船渡を代表する魚の今後の豊漁に期待を込めています。

サンマの初水揚げの様子
（写真提供：大船渡市）

■問い合わせ
岩手県農林水産部水産振興課　☎019-629-5805

## 開催 いわて復興道路フェスタ開催

宮古市 MIYAKO

令和４年８月27日（土）、昨年12月に全線開通した復興道路の更なる利活用促進を図るため、宮古市で「いわて復興道路フェスタ～岩手がもっと、近くなる！～」が開催されました。

屋外イベントの会場となった宮古市の三陸鉄道宮古駅前広場では、オープニングセレモニーで地元の山口太鼓の会が演奏を披露したほか、宮古市のタラフライや大船渡市の蒸しガキ、久慈市の短角牛メンチカツなど、復興道路沿線の名産品が販売され、多くの人でにぎわいました。

また、イーストピアみやこで開催された屋内イベントでは、みやこ市民劇ファクトリーが復興道路にちなんだ演劇を披露したほか、トークセッションには、一関市出身の女優小松彩夏さんや達増知事などが出席し、知事は「新鮮な海産物を東京や仙台に早く届けることができる。SF映画のワープのように、異次元の移動・交流が可能になった。」と全線開通の効果を述べました。

県では、復興の取組により、大きく進展した交通ネットワークを生かしながら、「新しい三陸の創造」を進めるため、物流、観光、救急医療、防災などについて様々な施策を展開していきます。

いわて復興道路フェスタの様子

■問い合わせ
岩手県県土整備部道路建設課　☎019-629-5868

# さんりくイベント情報

## 三陸の魅力再発見の旅　「さんりく旅しるべ博2022」

沿岸全域 COASTAL WIDE

三陸DMOセンターでは、三陸沿岸道路の全線開通を生かし、県内外の方々に三陸の魅力を再発見していただき、交流人口や関係人口の拡大につなげるため、「さんりく旅しるべ博2022」を開催しています。

開催期間中、「知る」「行く」「楽しむ」をテーマに、三陸の地域資源を生かした様々な体験プログラムやイベントを企画・発信しています。ぜひこの機会に三陸へお越しください。

**開催期間**　令和４年10月31日（月）まで

**対象地域**　岩手県沿岸13市町村〈洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、住田町、大船渡市、陸前高田市〉

**内　容**

1) 三陸の観光ポータルサイト「さんりく旅しるべ」に特集ページを開設し、三陸の体験アクティビティ、イベント等の情報を随時発信しています。
2) ㈱アクティビティジャパンと連携し、同社の予約サイトに特設ページを開設しました。三陸の体験アクティビティが、オンラインで予約可能です。
3) （一社）日本自動車連盟（JAF）と連携し、三陸沿岸道路を活用した周遊型デジタルスタンプラリーを開催中です。スタンプを集めて応募すると、抽選で三陸の特産品が当たります！
4) 県内外の三陸地域に愛着を持つ方々を対象に三陸観光フォーラム及び交流会を開催します。
   ・開催予定日：令和４年10月29日（土）
   ・開催場所：宮古市浄土ヶ浜

**●問い合わせ**　公益財団法人さんりく基金DMO事業部（三陸DMOセンター）
☎0193-77-5760

※新型コロナウイルス感染症の影響等により、中止や内容が変更となる場合があります。予め、問い合わせ先にご確認ください。

BURARI SANRIKU ぶらり三陸 田野畑村

## 羅賀の津波石

**明治三陸地震津波の威力を示す石**

三陸ジオパーク Sanriku Geopark

明治29（1896）年６月15日に発生した明治三陸地震津波では、三陸沖で発生した地震に伴う大規模な津波により、三陸沿岸を中心に死者約２万２千人、流出・全半壊家屋１万戸以上という我が国津波災害史上最大の被害が発生しました。当時の羅賀地区でも、全32戸の家屋のうち16戸が流失し、122人が亡くなりました。この明治三陸地震津波により運ばれたとされるのが、「羅賀の津波石」です。

羅賀の津波石

「羅賀の津波石」は、海岸から約250m内陸の標高28mの畑の中にある巨大な石です。石の大きさは、長さ約３m、横幅約２m、高さは一部が地中に埋まっているものの地表に１m以上あり、重さは約20トンと推計されます。地元の方々の言い伝えや、石の中に海岸線にある白亜紀の地層と同じ化石が含まれていることから、もともと海岸付近にあったことが証明されています。

震災の記憶や自然の脅威を後世に伝える貴重な遺産として、三陸ジオパークのサイトに登録されています。

**場　所**　岩手県下閉伊郡田野畑村羅賀27- 2（羅賀ふれあい公園内）

■問い合わせ　三陸ジオパーク推進協議会　☎0193-64-1230

# いわてさんりくびと

連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いを持ち、活躍する方々を紹介します。第132回は**太田祐樹**さんをご紹介

～ 沿岸全域をいちごの一大産地にしたい ～

**PROFILE** ―― 新潟県小千谷市出身。大学院を修了し、農学博士取得。平成24年、岩手県農業研究センター技術部南部園芸研究室に任期付き研究員として採用される。平成30年、イチゴの周年施設栽培に取り組むため、個人事業主として開業し、翌年の平成31年に株式会社リアスターファームを設立。

### 新規産業のカギは、夏イチゴ

新潟県から一度も離れたことがなかった太田祐樹さんが岩手県の研究員に応募したのは、東日本大震災津波への思いからでした。「私は新潟県中越地震を経験し、多くの方々のお世話になりました。岩手で研究を通じて貢献することで、その時の恩返しができればと考えました」と振り返ります。

太田さんは「被災地域を新たな食料生産地域として再生する」という課題解決に向けて、夏イチゴに注目します。夏イチゴの生産は冷涼な地域に限られており、夏秋の生産量は、国内イチゴ市場の２％程度です。三陸沿岸地域は、やませの影響から夏季も冷涼であり、夏イチゴの栽培に適していました。太田さんは収益性を高めるために研究を重ね、同一株を２年にわたり栽培する作型にたどりつきます。さらに、その作型を１年ずらして行うことで、切れ目のない周年栽培方式による生産量の増加に成功しました。

### 仲間を増やし、一大産地に

太田さんは研究員の任期後もイチゴ事業を継続し、平成30年に個人事業主として開業、翌年に株式会社リアスターファームを設立しました。現在、３つの拠点を構え、14名の従業員と汗を流しています。

「昨年やっと設備が整い、従業員も揃いました。これからは人材育成に力を入れたいと思っています。イチゴ農家を増やしていくことで、沿岸全域をイチゴの一大産地にし、にぎやかさを取り戻したいです」と、太田さんは将来を見据えます。

**岩手県の被害状況**　令和4年8月31日現在

■人的被害　死者：5,145人（余震、震災関連死を含む）
行方不明者：1,110人
■建物被害（住家のみ、全半壊）26,079棟
被害状況等の詳細／義援金・寄附金の募集等
いわて防災情報ポータル　検索

**皆さんのご支援、ありがとうございます**　令和4年8月31日現在

■義援金受付状況　約188億3,045万円（98,806件）
■寄附金受付状況　約203億7,687万円（15,428件）
■いわての学び希望基金（※）受付状況　約105億2,565万円（26,847件）
※被災したこどもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

いわて震災津波アーカイブ～希望～　約24万点の資料を検索・閲覧できます。
いわて震災津波アーカイブ　検索

いわて復興だより 第186号
令和4年10月3日発行　企画・発行／岩手県復興防災部復興推進課 ☎019-629-6945　編集・校正／永代印刷株式会社